

1. 評価指標

- 各施策パッケージや実施目標に対応して、わかりやすく定量的で効果計測が可能な評価指標を設定
- 現計画で設定している評価指標は、効果検証を行うため原則引継ぎ、効果計測が不可となった評価指標は代替指標等を設定

パッケージ	実施目標	代表指標	算出方法	算出に用いる資料
安全・安心なまちづくり	災害に強い交通環境を実現するため、道路や橋梁等の交通基盤の耐震化や適切な維持・保全を行うとともに、効果的な交通情報の提供等の取組を進めます	緊急輸送道路等における橋梁の耐震補強整備率	緊急輸送道路等における橋りょうの耐震化整備率を集計	札幌市建設局資料
	一年を通じて誰もが安全・安心に利用できる交通環境を実現するため、交通施設や車両のバリアフリー化の取組を進めるとともに、道路の適切な利用環境の確保を図ります	歩道バリアフリー整備延長	「新・札幌市バリアフリー基本構想」で設定されている生活関連経路の歩道バリアフリー整備延長を集計	札幌市まちづくり政策局資料
多様な暮らし	自家用車に頼らなくても生活できる持続可能な地域交通環境を形成するため、バス路線の適切な維持に向けた取組などを進めるとともに、ICTを活用した交通情報の提供など公共交通の利用促進の取組を進めます	公共交通利用者割合	地下鉄、JR、バス、路面電車、タクシーの利用者数を人口で除して算出	札幌市まちづくり政策局資料
	地域の豊かな生活を支える中心的な役割を担う拠点を形成するため、民間の開発やまちづくりの機会を捉え、安全で快適な歩行環境の確保や乗継・移動環境の向上に向けた取組を進めます	拠点における駅乗車人員	地域交流拠点の地下鉄、JR駅の乗車人員を算出	札幌市まちづくり政策局資料
都心まちづくり	人を中心とした安全で快適な交通環境を創出するため、誰もが快適に通行できる歩行空間を形成するとともに、自転車や公共交通等による回遊性向上に向けた取組を進めます	都心の歩行者交通量	都心の主要地点における歩行者交通量を集計	札幌市都心商店街通行量調査
	誰もが都心にアクセスできる利便性の高い交通ネットワークを形成するため、公共交通の利便性向上や交通結節機能の強化を図るとともに、都心と高速道路とのアクセス機能強化の検討を進めます	都心における駅乗車人員	都心駅（JR札幌駅、地下鉄さっぽろ駅・大通駅）の乗車人員を算出	札幌市まちづくり政策局資料
観光まちづくり	国内外から訪れる観光客の滞在・周遊・再訪を促進するため、都心から観光施設へのアクセス向上など、観光客の受入環境向上の取組を進めます	札幌観光の満足度および不満足度（観光スポットへのアクセス）	観光客の満足度および不満足度を集計	来札観光客満足度調査
	国内外から訪れる観光客などに分かりやすい交通情報を提供するため、案内表示の多言語化等による利便性向上の取組を進めます	公共交通機関を利用した観光客の割合（札幌滞在中の移動手段）	観光客の札幌滞在中の移動手段において、公共交通機関（地下鉄、JR、路線バス、路面電車、定期観光バス）を利用した割合を算出	来札観光客満足度調査
広域連携	道内の主要都市や観光地のほか国内外の地域と道央都市圏をつなぎ、人や物の移動の円滑化を図るため、札幌駅交流拠点等の交通結節点や丘珠空港の機能強化などの取組を進めます	主要駅の乗車人員	JR札幌駅又は新千歳空港駅における乗車人員を算出	札幌市まちづくり政策局資料
	周辺都市と市内の拠点相互が有機的に連結し、物流や緊急車両走行の円滑化を図るため、都心アクセス道路の検討など、骨格道路の機能強化に向けた取組を進めます	主要拠点間のアクセス時間	都心と新千歳空港間（札幌北IC経由）のアクセス時間を集計	道路交通センサス
環境負荷低減促進	自動車から公共交通機関への転換を促し、環境負荷の低減につなげるため、公共交通の利用促進の取組を進めます	公共交通に対する満足度および不満足度	市民の満足度および不満足度を集計	評価指標達成度調査
	自動車のCO ₂ 排出量の削減を目指し、渋滞緩和対策による交通円滑化等の取組を進めるとともに、次世代自動車の普及促進を図ります	市内CO ₂ 排出量（運輸部門）	札幌市全体のCO ₂ 排出量（運輸部門）を集計	札幌市環境局資料



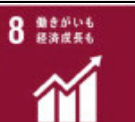





交通戦略：評価指標、推進体制

2. 施策パッケージと持続可能な開発目標（SDGs）の関係

➤ これまでの委員会での意見や踏まえ、各施策パッケージに関連する持続可能な開発目標（SDGs）を整理

（意見概要）

- SDGsを取り入れることで持続可能性を深く説明できる
- SDGsは世界の共通言語のようなものであり、札幌市の計画では、アイコンを使って説明することにより、市民への訴求力も向上する

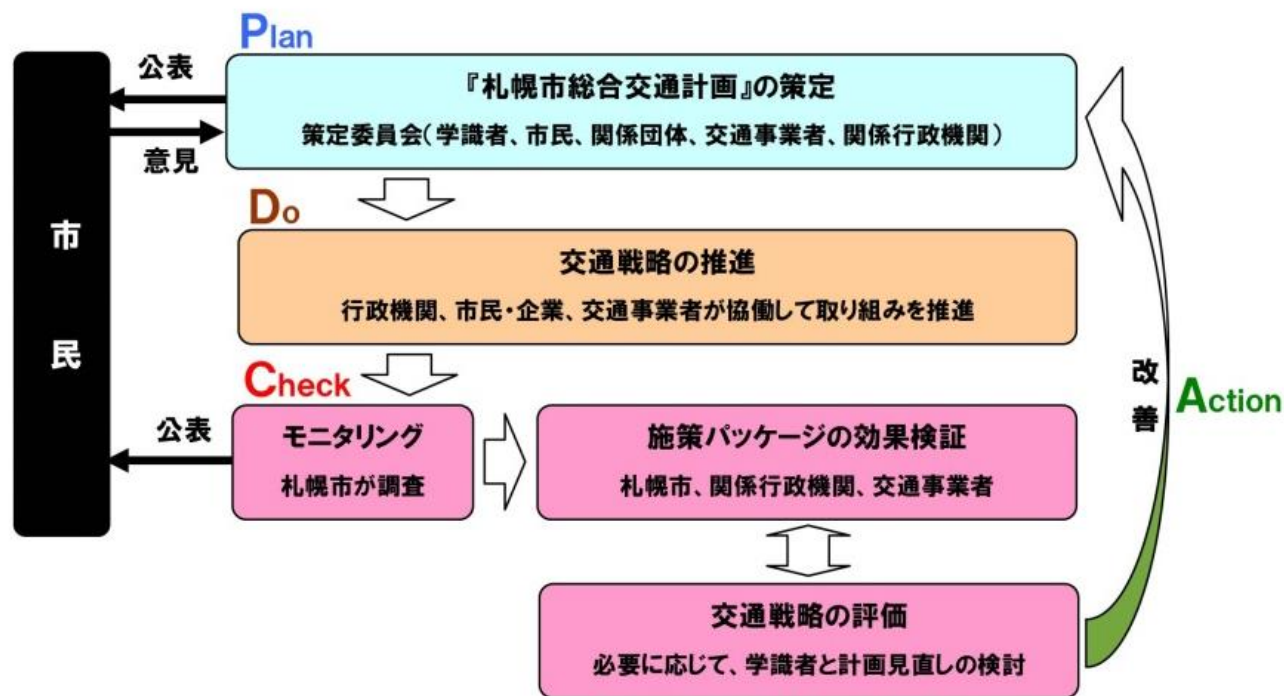
SDGsゴール		パッケージ	安全・安心なまちづくり	多様な暮らし	都心まちづくり	観光まちづくり	広域連携	環境負荷低減促進
 3	すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する		○	○	○			
 7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに 全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する							○
 8	働きがいも経済成長も 包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセントワーク)を促進する				○	○	○	
 9	産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る				○	○	○	
 11	住み続けられるまちづくりを 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する		○	○	○			
 12	つくる責任 つかう責任 持続可能な生産消費形態を確保する							○
 13	気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる							○
 17	パートナーシップで目標を達成しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化 する					○		○

交通戦略：評価指標、推進体制

3. 推進体制

(1) 進行管理

定期的に計画の見直しを行うため、関係行政機関、市民・企業、交通事業者などの各主体が連携して、進行管理（PDCAサイクル）を行う



- ✓ **Plan** [計画づくり]
市民や関係機関等による策定委員会において計画づくりを行います。
- ✓ **Do** [計画の推進]
行政機関、市民・企業、交通事業者が連携・分担して施策を実施します。
- ✓ **Check** [効果検証・評価]
施策パッケージに対応した指標で効果検証を行い、社会情勢等も踏まえて、計画の評価を行います。
- ✓ **Action** [改善]
効果検証や評価を踏まえて、必要に応じて計画の見直しを行います。

(2) 協働の取り組み

これまでの委員会やワークショップでの意見を踏まえ、市民・企業、行政機関、交通事業者の役割を整理

分類	意見概要（市民・企業、行政機関、交通事業者の役割に関する事項を抜粋、要約）	推進体制を考える上で重要な視点
委員会	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 今後増加していく高齢者の公共交通利用促進に取り組むことが必要 ➢ 交通インフラ維持管理は全て行政で維持できない。利用者負担の可能性の議論が必要 ➢ 公共交通を維持するためには市民が使わなくてはならない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通維持のため、市民が積極的に公共交通を利用
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ CO2削減には市民意識の醸成が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民の環境負荷低減の意識醸成
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 公共交通の利用促進に取り組む企業を認定・表彰することが重要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業の公共交通利用促進の取組
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 行政内の他セクションとの連携が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政機関の他分野との連携
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ バス・タクシーなどの事業者の横断的な連携が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通事業者間の連携
ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 冬季の砂まきの積極的な実施やバス停の除雪など、市民ができる冬季の交通環境の改善をする 	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通環境改善のため、市民ができることを積極的に実施
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 交通ルールを知り、順守する（路上駐車をしない、路上駐輪しない、自転車レーンを通行等） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通環境改善のため、交通ルールを順守
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 移動手段の変更による環境負荷の低減に努めることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民の適切な交通手段の選択
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 健康増進・環境の観点からも、徒歩と公共交通を合わせた移動や自転車を取り入れることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 徒歩や自転車の積極的な活用

① 市民・企業の役割

- 交通手段を選択するのは、一人一人の市民や個々の企業です。公共交通や徒歩、自転車といった自動車に頼らない交通手段を選択することは、「公共交通の維持」や「地球温暖化対策」に寄与します。社会の一員として自らの行動が社会全体の利益につながるという高い意識をもって行動する必要があります。

【役割】

- 市民は、生活の足としての公共交通の社会意義を理解し、公共交通の利用促進に積極的に協力します。
- 市民は、地球温暖化問題を意識して、地球環境にやさしい公共交通や徒歩、自転車を最大限選択します。
- 企業は社会的責任として、従業員や顧客が「環境首都・札幌」の市民にふさわしい交通手段を選択するよう積極的に協力します。

② 行政機関（国・北海道、札幌市、交通管理者）の役割

- 交通はまちづくりや観光、環境、福祉など様々な分野と密接に関係していることから、これらの分野と連携して、長期的視点に立った計画を立案し、市民・企業、交通事業者と情報を共有し、連携して札幌市総合交通計画を実現することが必要です。

【役割】

- 札幌市の目指すコンパクトなまちづくりと共に、人と環境にやさしい公共交通を軸とした交通体系の実現に向けて、市民・企業、交通事業者、関係行政機関と協力して、計画づくりと計画の着実な実施と見直し（PDCAサイクル）に努めます。
- 計画づくりの局面だけでなく、全ての局面において、市民・企業や交通事業者、関係行政機関相互の協議の場の提供など、意見調整のリーダーシップを図ります。
- 市民・企業や交通事業者が計画の実現に協力できる環境づくりに向けて、交通社会基盤づくりや支援制度などの社会制度を確立します。
- 市民・企業、交通事業者や行政機関自身の意識改革に向けて、積極的な情報発信や啓発、教育に積極的に取り組みます。

③ 交通事業者の役割

- 市民・企業や札幌市を訪れる観光客に対して、「鉄道」「バス」「タクシー」などの公共交通サービスを提供する交通事業者は、札幌市総合交通計画を実現するうえで重要な役割を担っており、誰もが安全・安心に利用できる公共交通の実現を目指し、各事業者間が連携し、利便性の高い公共交通サービスの提供を行う必要があります。

【役割】

- 利用者の声を真摯に受け止めて改善を図り、一年を通じて安全・安心に利用できる交通サービスの提供に努めます。
- 移動前、移動中の各局面において分かりやすい情報を提供するなど、サービスの質を高め、誰もが利用しやすい公共交通の実現に努めます。
- 事業環境の悪化など交通事業者の抱える問題を、市民・企業、行政機関等が共有して協力するため、事業情報の開示・提供を行い、改善に向けた開かれた議論を行うよう努めます。